

友夢牧場が道内初メロンの水耕栽培に成功 ほか

## 道内初 メロンの水耕栽培に成功

友夢牧場がバイオガス発電の余剰熱を活用しメロンを水耕栽培  
有限会社友夢牧場（植田昌仁社長）が、バイオガス発電の余剰熱を活用したメロンの水耕栽培に成功しました。  
メロンは土耕栽培が一般的で、水耕栽培による生産は道内初。青肉と赤肉の2品種で、7月末に収穫したメロンは糖度17〜19度。はら農場代表の原大知さんが栽培に協力しています。  
今回収穫されたメロンは、8月4日に開催された土曜市場で試食用として振る舞われました。  
同牧場の湯浅佳春会長は「今はまだ試験段階だが、将来的には『友夢メロン』として、ふるさと納税の返礼品や百貨店などにしたい」と話しました。



たわわに実ったメロンに笑顔の湯浅会長

## 各校で町の特色を活かした授業を展開

屈足南小学校で陶芸体験、新得小学校・富村牛中学校で手話学習  
7月2、9日の2日間、屈足南小学校（高充慶校長）の5、6年が町陶芸センターで陶芸を体験しました。児童らは宇賀隆敏指導員の指導のもと真剣な表情で作業に取り組み、思い思いの作品を作り上げました。製作した陶芸品は後日登り窯で焼き上げられ、9月7日の窯出しで完成します。  
7月11日、富村牛中学校（新倉忠司校長）の全校生徒7人が聴覚障害者養護老人ホームやすらぎ荘を訪れ、手話の歌で「ふるさと」を披露するなど入所者と交流をしました。この訪問は授業の成果を地域に活かそうと同校教諭が企画し、今年初めて実施しました。



5年生は湯のみ、6年生は小鉢を製作した屈足南小学校の陶芸体験

12日に新得小学校（高瀬悟史校長）で行われた手話学習では、同校を訪れた施設の入所者や地域住民など6人のろうあ者と5、6年生が自己紹介や好きな食べ物などを質問し合い交流しました。  
両校の手話学習を指導した役場保健福祉課の是井里智子手話推進員は「聞こえない人たちは様々な苦勞を抱えて生活している。町で会ったら進んであいさつしましょう。授業以外にも手話の勉強を続けていってほしい」と話しました。



手話の歌を披露し、入所者を楽しませた富村牛中学校生徒



学んだ手話を活かして地域住民との交流を深めた新得小学校児童

## ひとつと手話講座

№.47

○なごころ  
なつ（夏）



親指を人差し指にのせた（うちわをもった）右手拳で首筋をあおぐように動かす



なごころ（秋）



5指を広げた右手のひらを空に向けて大きな弧を描く

今月号のモデルは、役場保健福祉課健康推進係保健師の黒澤結花さんです。

## 広報モニターからの声

広報モニターさんから「広報しんとく7月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

### ▼特集記事について

- ・新得が電源のまちであり、こんなにたくさんダムがあることを知らなかったため、わかりやすい内容でした。
- ・新得町にある水力発電所を写真、大きさや貯水量、出力まで詳細が掲載してあり、眺めているだけでも面白い内容でした。数字を見ると改めてその大きさに驚かされます。町内発電量だけでも十勝管内の多くの世帯をカバーできるという事実も初耳でした。財政だけでなく、ラフティングやワカサギ釣りなど文化面でも大きく貢献していると思います。
- ・ダムの種類のイラストは少しわかりづらかったと思います。特にロックフィルダムは文字が読みづらく、読めても専門用語ばかりだったので、もう少し簡略なイラストでもよかったですと思います。

- ・地図上にダムと、発電所の関連性が分かりやすく描かれてお

- りとても分かりやすかったですと思います。トムラウシに向かう途中に大小こんなに発電所があるとは意外でした。
- ・導水路、放水路の矢印がわかりづらかったと思います。
- ・タイトルが凝っていて、勢いを感じさせられます。上岩松発電所1号の文字が太く、新たに建設される新得発電所が細かったので、どちらが今回の記事のメインが分かりづらく感じました。
- ・新得にはこんなに水力発電所があったんですね。10年以上もかけて建設されたものもあり、先人の苦勞がしのばれます。鉄道もダム工事も大勢の犠牲者がおられたと聞いています。今の私たちの豊かな暮らしが、そういう方々の過酷な生の上に成り立っていることを深く心に刻みたいと思います。

### ▼その他の記事について

- ・表紙について  
とても躍動感があり、真剣なまなざしや楽しんでいる様子が分かる素敵な写真でしたが、フォォカスが後ろに合っていたのが残念です。
- ・収納の状況と滞納対策について  
毎月の支払いではないものは忘れやすいので、気をつけようと思います。

### ・NHK連続テレビ小説「なつぞら」のロケについて

連続テレビ小説の撮影が先月あり、新得をはじめ十勝全域で盛り上がり 있었습니다。全国ネットでも十勝で取り上げられることは改めて自分たちが住んでいる十勝を見直すことでもあり、外の全国の人たちの思う十勝のイメージを認識できる良い機会だと思います。

### ・VOICE〜町の声〜について

30歳代の若い方の切迫した感じの「声」と、その回答の冷静なトーンにあまりにギャップがある印象です。新得は特急が全て停まるという、この小さな町にしては大きな強みがありますし、美味しいものも素敵な人も場所もたくさんあると感じています。どうすれば町が元気になるのか、住んでいる私たちが幸せを感じられるのかよく考え、自分自身が行動することが大切かと思っています。「協議」やら「検討」ではなく、まずは住民が「夢を語り合う」ところから。ポトムアップの町づくりの方がユニークなアイデアが生まれるような気がします。

### ・ふるさとの顔について

毎回楽しみにしています。その方その方の人生のストーリーがあって興味深いです。今では

考えられないような苦勞をいろいろ経験されてきて、それでも今を明るく生き生きと人のつながりを楽しみ、自分は幸せ者と言い切る人生の先輩たちに頭が下がります。

・図書館だよりについて  
書店だと自分の関心のあるコーナーにしか行きませんが、図書館の最新コーナーの良いところは、あらゆるジャンルの本が並べられているところです。手に取ってパラパラめくるだけで、意外に面白そうなジャンルに巡り会ったり新しい作者との出会いがあったりします。図書館がよりたくさんの方に利用されると思います。

### ▼7月号全体について

・開拓に関わった先人への慰霊式や、現在町へ貢献する方々の表彰式。そして戦後の十勝を舞台にした「なつぞら」といった記事が印象的でした。来年で新得町開拓120周年ですが、改めて歴史の中で自分たちがここに立っている意味や、将来に向けて新得町をどのように残していくか考えさせられました。